【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第７部門第４区分
【発行日】平成17年4月7日(2005.4.7)

【公開番号】特開2003-143784(P2003-143784A)
【公開日】平成15年5月16日(2003.5.16)
【出願番号】特願2001-337545(P2001-337545)
【国際特許分類第７版】
　Ｈ０２Ｋ　1/18
　Ｈ０２Ｋ　1/27
　Ｈ０２Ｋ　21/16
【ＦＩ】
　Ｈ０２Ｋ　1/18　　Ｃ
　Ｈ０２Ｋ　1/27　　５０１Ｂ
　Ｈ０２Ｋ　21/16　　Ｍ

【手続補正書】
【提出日】平成16年5月27日(2004.5.27)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１８
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１８】
　例えば、図３に示されているように、回転方向の角度（横軸）に対するコギングコルク（縦軸）は、破線Ｌ１で表した従来装置に対し、一点鎖線Ｌ２で表した上述の実施形態の場合においてピーク値が大幅に低減されていることが解る、また、上述した実施形態では、微少突起部２１における周方向幅ｔ１をスロット部１６の周方向幅ｔ２とほぼ同一（ｔ１　ｔ２）としているが、微少突起部２１の周方向幅ｔ１をスロット部１６の周方向幅ｔ２の約１.５倍（ｔ１　１.５×ｔ２）とした場合には、図３の実線Ｌ３で表されているように、上述した実態形態よりはやや劣るものの、当該場合においてもコイングトルクのピーク値がかなり低減されることが解る。さらに、微少突起部２１の周方向幅ｔ１をスロット部１６の周方向幅ｔ２の約０.５倍（ｔ１　０.５×ｔ２）とした場合においては、図３中の二点鎖線Ｌ４で表されるように、上述した各場合と反対側の領域のコギングコルクが発生するが、そのときのピーク値の絶対値は、上述した１.５倍の場合と同程度に低減されることが解る。
【手続補正２】
【補正対象書類名】図面
【補正対象項目名】図３
【補正方法】変更
【補正の内容】

【図３】

